

社会情報学会 (SSI)
定例研究会 (実証・政策部門) +九州・沖縄支部地域社会情報学研究会
合同企画「島嶼社会情報学」研究会 2021 開催のご案内

SDGs と島嶼社会情報学
～持続可能な社会構築のための情報学を島から考える～

【趣旨説明】

「人新世」の地球史において、人類は地球環境への影響力を高め、文明の利器としての技術力をもって自らの生存域を拡張し、その圏域における支配権を得たかの驕りを未来に延長するかの現代。マクロな現象として、人類の生存圏域を襲う異常気象は人知を遥かに超え、幾多の大災害をもたらしています。一方、ミクロな次元では、生態系の均衡をもたらす多様性が崩れ、新種のウイルスや病原菌がエピデミック（風土病）として群れを成す生命に感染症を発症させ、新たな病原体の出現の脅威ともなり、それらへの対応（予防・治療・耐性確保）を余儀なくされています。そのような現状は認識こそされ、身に迫る脅威というよりも局所的現象として頻発してきましたが、ミレニアムを越え「不都合な (*inconvenient*) 真実」から「差し迫った (*imminent*) 危機」に様態を変化させてきています。それは、頻発する世界的異常気象（温暖化）であり、新型感染症（コロナウイルスのパンデミック：世界的流行）であり、今正に我々はこれらの苦難に直面しています。

しかしながら、このような現実を我々はいかに受け止めているのでしょうか。それすらも共有できない現実をまざまざと見せつけられるところではありますが、国際連合は「持続可能な開発目標」（Sustainable Development Goals: SDGs）として17の目標を掲げ、人類が対処すべき課題の参照軸を提示しました。これらの目標があつてこそ日々の現実の変化をも感知・認知することになるのかもしれませんが、このことは情報通信技術の発達とともに、データ化された情報のみならず、生活の中での自然（物理化学的）環境と社会（人為的）環境から得られる情報の他者との共有をもって達せられることでもありましょう。その意味において情報通信技術の社会的応用を考える社会情報学に地域生活圏の視座を与えるものであるかもしれません。

今回、社会情報学的視座を得るために、長崎県の壱岐市と対馬市の二島をオンラインで結び、ハイフレックス方式でオンライン配信する研究会を企画しました。ここで、なぜ島からか、それは地理的自律・独立性を有し、独自の文化・環境生態系において生活圏を形成しながら、他地域との連結性を要する島嶼ではその生活圏は循環型社会を実感しうる地域でもあり、自然環境の変化と持続可能な環境に対してセンシティブであるとともに、少子高齢化の人口動学・社会構造の諸問題に地域として取り組む地場を有しているとも言えるからでもあります。また、壱岐市は2018年度に内閣府の「SDGs 未来都市」に「壱岐活き対話型社会「壱岐（粋）な Society5.0」をタイトルに、「自治体 SDGs モデル事業」としては

「Industry4.0を駆使したスマート6次産業化モデル構築事業」が選定され、事業の実施に取り組んできている。また、対馬市は「自立と循環の宝の島 ～サーキュラーエコノミーアイランド対馬～」をタイトルに2020年度の「SDGs未来都市」に選定されました地域でもあります。

なお、本研究会では、基調講演者として生活者の観点から「地球ファースト」的視点からSDGsの政策実現を唱える河口真理子先生を基調講演者としてお招きし、壱岐対馬のSDGs政策関係を交えた地域での取り組みや課題について、社会情報学的観点を交えて議論する機会といたします。

記

- 1 開催日時： 令和3（2021）年11月13日（土） 13:00～17:30
- 2 開催会場： 壱岐みらい創りサイトフリーウィルスタジオ
（〒811-5322 長崎県壱岐市芦辺町深江鶴亀触 1092-5）
対馬市交流センター（〒817-0021 長崎県対馬市巖原町今屋敷 661 番地 3）

<2会場からのハイフレックス型オンライン研究会方式による>

3 プログラム概要

11月13日（土）

総合司会 河又貴洋 長崎県立大学

13:00 開会挨拶 社会情報学会（SSI）研究企画委員会委員長

木村忠正（立教大学）

13:10 趣旨説明 河又貴洋（SSI九州・沖縄支部長／長崎県立大学シーボルト校）

13:20 基調講演：「SDGsで変わる経済と新たな暮らし」

河口真理子（立教大学特任教授）@壱岐

14:20 ～ 休憩 ～

14:40 パネルディスカッション：

「島嶼からのSDGs達成のための情報共有・発信」

パネリスト：

- ・対馬から：川口幹子（（一社）対馬里山繋営塾 代表理事）他
- ・壱岐から：篠原一生（壱岐市SDGs未来課）他
- ・SSIから：金山智子（情報科学芸術大学院大学）@対馬
- ・基調講演者：河口真理子（立教大学）@壱岐

コーディネータ：河又貴洋（長崎県立大学）@壱岐

17:20 閉会挨拶 社会情報学会（SSI）会長 櫻井成一朗（明治学院大学）

各位

社会情報学会 (SSI)
定例研究会 (実証・政策部門) +九州・沖縄支部地域社会情報学研究会
合同企画「島嶼社会情報学」研究会 2021 のご案内

SDGs と島嶼社会情報学 ～持続可能な社会構築のための情報学を島から考える～

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は格段のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

社会情報学会 (SSI: The Society of Socio-Informatics, <http://www.ssi.or.jp/>) は、「社会と情報」に関わる問題を体系的に位置づける基礎理論、対象とする現象を客観的に記述する実証・分析、問題解決のための具体的な実践を、学際的な観点から研究機関だけでなく企業や、自治体や、生活における実践のなかで問題を発見するすべての人びととともに取り組む知識共同体であります。その活動の一環として、研究活動委員会の「理論」「実証・政策」「数理」の三部門で定例研究会を企画・実施しております。また、本学会は地域ブロックに支部を設け、各地域で主体的な研究活動に取り組んでもいます。

今回は、「実証・政策」部門の定例研究会として、現下の最重要課題である国連の「持続可能な開発目標 (SDGs)」に鑑み各国・各国内地域で様々な政策・施策が取り組まれている中、九州・沖縄支部との共同企画で長崎県の壱岐・対馬市に赴き、離島地域における「ひと・まち・しごと」の地域創生事業から「People (人間) /Prosperity (豊かさ) /Planet (地球)」の SDGs への転回・展開による地方創生について考える機会として「SDGs と島嶼社会情報学～持続可能な社会構築のための情報学を島から考える～」をテーマに研究会を開催することとなりました。少子高齢化で人口減少問題に直面する地域社会の存続には、地域の課題解決にむけて、地域内外との連携や情報共有を図っていくことが重要です。こうした点について、市民、行政職員、研究者を交えて多角的に議論を深めて参りたいと思います。特に、島嶼・中山間地域の持続可能な発展に向けた地域づくりのポイントについて、壱岐・対馬市を取り巻く環境問題や医療、教育、地域経済の事例から現状と課題を探り、今後の地域の問題解決と情報環境の活用について考えを深めることが目的です。

社会情報学会 (SSI) 研究活動委員会委員長 木村 忠正

記

- 1 開催日時： 令和3（2021）年11月13日（土） 13:00～17:30
- 2 開催会場： 壱岐みらい創りサイトフリーウィルスタジオ
（〒811-5322 長崎県壱岐市芦辺町深江鶴亀触 1092-5）
対馬市交流センター（〒817-0021 長崎県対馬市厳原町今屋敷 661 番地 3）

<2会場からのハイフレックス型オンライン研究会方式による>

3 プログラム概要

11月13日（土）

総合司会 河又貴洋（長崎県立大学）

13:00 開会挨拶 社会情報学会（SSI）研究企画委員会委員長
木村忠正（立教大学教授）

13:10 趣旨説明 河又貴洋（SSI九州・沖縄支部長／長崎県立大学准教授）

13:20 基調講演：「SDGsで変わる経済と新たな暮らし」
河口真理子（立教大学特任教授）@壱岐

14:20 ～ 休憩 ～

14:40 パネルディスカッション：

「島嶼からのSDGs達成のための情報共有・発信」

パネリスト：

- ・対馬から：川口幹子（（一社）対馬里山繋宮塾 代表理事）他
- ・壱岐から：篠原一生（壱岐市SDGs未来課）他
- ・SSIから：金山智子（情報科学芸術大学院大学教授）@対馬
- ・基調講演者：河口真理子（立教大学）@壱岐

コーディネータ：河又貴洋（長崎県立大学）@壱岐

17:20 閉会挨拶挨拶 社会情報学会（SSI）会長 櫻井成一郎（明治学院大学教授）

- 4 参加申込方法： 下記GoogleフォームのURL（右記QRコード）より、
必要事項を記入の上参加申し込み下さい。

<https://forms.gle/sUp5h5gTCyDEyJM77>



- 5 お問合せ先： SSI研究活動委員会／九州・沖縄支部
長崎県立大学シーボルト校 国際社会学部 河又研究室
e-mail：t.kawamata@sun.ac.jp []トル